

環境美化・

自然保護の標語

入賞発表

「国分川をきれいにする

会(門田理博会長)が募集した環境美化・自然保護の標語には一般の部百二十三人、小中学生の部二百二十一人の方から応募があり、次の方々が入賞しました(敬称略)。

入賞した作品は小旗や横断幕に使い、今後の啓もう活動に使用させていただきます。どうもありがとうございました。

▼一般の部

◎南国市長賞 津田由紀子
「親たちが子供に残す宝物清い流れと山の青」

◎南国市議会議長賞 武石葉子
「川はみえますあなたのもラル!!!」

◎国分川をきれいにする会会長賞 戸田絹「清流にゴミや汚れは似合わない皆でまもろう国分川」

◎特別賞 福井慶一「環境を守る我々に夢未来」



▼小中学校の部

◎南国市教育長賞 津田康弘
「未来へと届けてほしい宅急便緑の山と澄んだ川」

◎南国市衛生委員連合会会長賞 西岡倫子「すてたゴミ川はなみだであふれてる」

◎国分川をきれいにする会会長賞 村山まや「南国の青空うつす国分川」

◎佳作 西森真紀、三木奈津子、大崎雅志、植田朝子、西原里美、川田展代、岡林佐和、藤島由香、藤岡美香、池田学

会をつくる夢とパン

作品展

とき 12月24日(火)～28日(土)

ところ 南国郵便局

こんがり焼けたあつたかいパンやクリスマスリース、ウエディングケーキなどの作品展、ぜひお立ち寄りください。

部落差別は、明治以後なぜ

残されてきたのでしよう⑦

改善運動から融和運動へ

一八九四(一九五)年(明治二十七八)年の日清戦争を背景に、日本の資本主義経済は、政府の手厚い保護のもとに急速な発展を遂げました。政府によって官営工場がつくられ採算の見通しがつくと、金持ちの大商人に格安の価格で払い下げるやり方で、資本家の促成栽培をしたのです。

これらの官営工場や払い下げられた近代工場には、部落の人は雇ってもらえませんでした。一八九四(明治二十七八)年、大阪の天満紡績でストライキが発生しました。このときのストの理由が、賃金の値上げや長時間労働の短縮などではなく、北陸方面から来た女子工員の中に数名の部落出身の者が働いていたのがわかり、他の大勢の女子工員が「新平民と共に働かせられることは、我々にとって最大の屈辱なので、これをやめ

同和教育シリーズ

よ」との理由でストライキを起したのです。部落の人々に対する当時の国民大衆の差別意識がうかがえます。農村地域でも地主が小作料が高いと言ってきた小作農民に「小作料が高いと思うなら土地を返せ。部落の者に貸せば、はるかに高い小作料が取れる」と脅し、高い小作料を維持するため部落差別を利用しましたが、部落の人には小作させませんでした。

このころから高知県では米の二期作栽培が始まり、一期作の刈り取りと二番稲の植え付け時には戦場のような忙しさでしたが、このときだけは部落の人も雇われました。しかし平常は仕事がないので、薬細工(草履つくり等)や竹細工などでやっと生活してい

ました。このため、部落と部落外との生活格差はさらにひろがり、差別も一層厳しくなってきました。このような世相ではありませんが、なんとかして差別をなくしていこうと思う人たちによる運動が全国各地に起こりました。九州平民会(福岡)、備作平民会(岡山)、大和同志会(奈良)等、一九〇二(明治三十六)年大阪で全国的な組織として「大日本同胞融和会」が結成されました。この会は、部落の有産階級の人たちが中心となり、差別の原因を部落の人たちの心がけにあるとして、自分たちが差別されないような行動をすれば部落外の人々も同情してくれ、融和が図られるとして結成された組織でした。

この考えに共鳴した野中二区(吉本代次郎氏等は、一九〇九(明治三十九)年、野中改風会(のち改善会と改称)を組織し、同志と共に東奔西走し、地区の人々の自覚を促し、内部から改善しようとする運動を始めました。